



「ストップ・ザ・無縁社会」
 広がれ! 全県キャンペーン
<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

「ひきこもり」の理解を地域に広める

芦屋市では、3月2日に地域フォーラムを開催し、148名が参加しました。今回は、兵庫教育大学の岩井圭司教授による「ひきこもりの理解と地域でのかわり」と題した講演会を行いました。

講演では、ひきこもりの方々の特性や関わり方について具体的な説明があり、ひきこもりの方々に伝えるべきメッセージとして、「そのままのあなたでいいんだよ」「失敗しても、なんとかとりかえせるものだ」「苦しいことから逃げてもいいんだよ」といったものがあることを教えていただきました。

このフォーラムをきっかけとして、ひきこもりの方が居場所を見つけられる地域づくりを進めていきたいと思えます。



誰も排除されない地域を目指して

たつの市において、3月8日に「たつの市社協龍野支部福祉フェア」が開催され、市民や福祉関係者など337名の参加がありました。認知症の母と娘を追ったドキュメンタリー映画「徘徊～ママリン87歳の夏」を上映し、娘の酒井章子氏の講演では「誰も排除しない・排除されない地域」や「些細な一言が、大きな支えとなる」など、地域のつながりの大切さを確認する機会になりました。

また、県立龍野北高校の生徒と西はりまりハビリテーションセンター利用者による「ウエルフェアコレクション」では、利用者と話し合い、機能性や利便性に考慮して作製した衣服や小物が発表されたほか、ピアサポートすぎなの利用者による合唱など、幅広い市民が参画したイベントとなりました。



「助けて」と言えるご近所づきあいを目指して

南あわじ市では、3月12日「みはら福祉の集い」を開催。『助け上手さん・助けられ上手さんの秘訣とは?』と題した住民流福祉総合研究所所長の木原孝久氏による1部の講演では、約250名が参加。困ったときに「助けて」と言えば、助けてくれる関係性をご近所ですることが大切であり、その秘訣について共に学びました。

また、2部の『支え合いマップづくり講座』では約80名が参加。ひとり暮らし高齢者や認知症の方等、その方を取り巻くご近所の関係性を地図に描くことで課題や地域の力を見える化する手法を体験しました。つどいを通して、ご近所同士の助け合いの重要性や、地域における話し合いの場の必要性を改めて考える機会となりました。



キャンペーンに、あなたも参加してみませんか?

キャンペーンに参加する3つの方法

キャンペーン推進団体として参画する

- キャンペーンの趣旨に賛同する団体で、特別な参加要件はありません(会費不要)。

協賛イベントを行う

- 各団体で実施される研修会やイベントを、「協賛事業」として開催してください。

協賛金に協力する

- このキャンペーンは、皆さまからの協賛金によって進められます。



参加に関するお申し出は事務局まで
 ご連絡ください
 (県社協 TEL 078-242-4633)

